

質問7の回答： 荒井 正吾 氏

奈良県の医療はこの数年で、南奈良総合医療センター、県立医大E病棟、新奈良総合医療センターの整備など高度医療が飛躍的に充実しましたが、急性期を志向する中小病院が多く医師や医療資源が散在している、在宅医療ニーズに十分対応できていないなどの課題があります。このため、救急・高度医療に責任を持つ「断らない病院」と地域包括ケアを支える「面倒見のいい病院」への機能分化や、医療従事者の適正配置などの取組を進めていく必要があります。

誰もが安心して医療を受けることができる国民皆保険制度を将来にわたり維持していくために、行政と各保険者、医療関係者が連携して、医療の効率的な提供の推進や、県民の健康の保持の増進など、医療費の適正化を図っていく必要があります。

また、医療だけでは健康維持ができないので、在宅でいろんな変化があるのを見守りしていただける、最期は看取りをしていただけるという地域包括ケアシステムの充実が、これからは大切であると思います。